

A 久元市長

1年半前に現状のご指摘をいただいたことをよく覚えている。

平成26年度の回収量11,000tに対して、資源化率3.3%、346tと低い状況にとどまっていた。そこで、前回お答えしたように、現状を改善しないとイケないということで、必要な予算措置も講じた。

平成27年度は、資源リサイクルセンターにおける手選別を増員するとともに、割れびんを含む残渣を、外部に発注して機械による選別を行っている。

結果、平成27年度には2,500t、資源化率25%、平成28年度には3,820t、資源化率38%を見込んでおり、改善に向けた取組を進めているところである。

こういった状況を踏まえ、唯一の処理施設である資源リサイクルセンター以外での処理ができないか、市内の民間処理施設において実験を行うなど分散処理の研究を進めていきたいと考えている。

さらに、平成28年度には、資源リサイクルセンターの老朽化の状況も踏まえて、分別ルール、収集方法、処理方法、行政コスト、環境負荷など様々な視点から検討を行い、効率的かつ安定的な中長期対策を確立していきたいと考えている。こういう方法で少しでもびんの再資源化を進めていきたい。

**Q 大井としひろ議員**

ガラスびんのリサイクルについては、川崎市の先進事例を学んでいただきたい。

川崎市では、平成11年から空きびんの回収を開始し、より一層の3Rに取り組むことを目的に、空きびんを割らない収集方法として、パッカー車の収集ではなく、2tの平ボディ車23台で、作業員は各車2名で、神戸市よりもずっと多い、35,357か所のステーションにおいて、かごタイプのコンテナで回収している。

先ほど、市長はかごタイプのコンテナでの回収は難しい、とおっしゃったが、川崎市ではできている。住民組織で推薦された「廃棄物減量指導員」という市民の皆さんが市とのパイプ役になって、協力体制が構築されている。川崎市のように人も予算もかけていただかないと抜本的な改善はできない。

空きびんをリサイクルすることで、びんの原料の天然資源が節約でき、カレットの消費率を10%増加させると、ガラス溶解に必要なエネルギーを2.5%削減できる。

ガラスびんのリサイクルを向上することで、省エネルギーが実現され、エネルギー起源のCO2排出量も削減できる。また、原料であるソーダ灰や石灰石は溶解時にCO2を排出するので、それらの原料に起因するCO2排出量も削減でき、地球温暖化防止対策につながる。

市民から回収したびん10,000tをすべて再商品化すると、ガラス瓶3R促進協議会での試算によると、1,000tのCO2の排出量が削減できるとのことである。

びんをリサイクルすることによって、環境破壊から地球を守るということで、市民の皆さんは丁寧にびんを洗って、リサイクルに協力している。神戸市民の環境への思いを無駄にすることのないよう抜本的な改善をお願いしたいがどうか。

A 久元市長

びんのリサイクルは、省資源化、地球環境にも貢献するため、進めなければならない。

前回、質問をいただいたときに、これではいけないということで、先ほどの答弁のような対応をとった。その上で、さらにこれからどうすることについて、川崎市の取り組みについても勉強させていただきたい。

ただ、家庭からどのようにごみを出すのかについて、現在、缶・びん・ペットボトルを一緒に出しており、びんだけ単独を出していただくということについては、市民を巻き込んだ議論が必要である。加えて、収集方法を抜本的に変えるということになると、それに対してどれだけの財政負担が必要かについても検討しなければならない。

ご指摘を踏まえながらも、これまでの経緯や実現可能性を勘案し、検討をさせていただきたい。

要望 大井としひろ議員

光学式選別機では、いくら頑張っても6割しか選別できない。残りの4割は



すべて埋め立てに回る。このことを頭に入れておかないといけない。

抜本的に改善していただいて、11,000tすべてを再資源化し、ワースト1からベスト1、2ぐらいに久元市長が実行したという実績を示していただければ、市民の皆さんは大拍手である。

市長の手で抜本的な改善をしていただくよう要望します。

名谷駅周辺の駐輪場について**Q 大井としひろ議員**

名谷駅周辺の市営駐輪場は一部を試行的に無料化しているものの、駐輪場全体の利用率は低く、老朽化したブロックもあるため、施設全体の見直しが必要となっている。今後、無料エリアを廃止し、民営化も含めた有料の運営を検討すると聞いているが、通勤客などの駐輪場利用者の負担を軽減させ、若者が住みやすいまちとして須磨区全体の活性化を図るためにも、駐輪場の更なる無料化を推進すべきと考えるが、見解を伺いたい。また、現在使われていない駐輪場を今後どのように活用していくのか、伺いたい。

**A 鳥居副市長**

このような駐輪場というのはこれまでもやっている整理が必要な有人・有料が基本と考えているが、利用実態にあった規模の縮小や再配置、そして駐輪場のあり方について、詳細に検討を進めたいと思っているところである。議員ご指摘の主旨も踏まえ、民間の力を入れた事業手法であったり、短時間の無料ということも必要かなと思うので、そういったことが可能な運営など、今後、幅広い視点で具体的に検討を進めていきたい。

再配置ということを見ると、いらぬブロックというか廃止するブロックも出てくるであろうと考えている。駐輪場は駅前の貴重な空間であるので、廃止ということになった場合は、沿道の土地利用や地域のニーズを聞かせていただいたうえで、まちの活性化につながるような幅広い利用の可能性を検討していきたいと考えている。

Q 大井としひろ議員

すでに無料化された駐輪場を有料化することには絶対に反対する。いかにして、オールドタウン化した須磨の北部の街に若い人たちに移り住んでもらうかについて頭をひねっているときに、若い人たちが逃げていくような、地元の思いと逆行する馬鹿な有料化には絶対に反対させていただく。

学生の皆さんをはじめ若い方々は、自転車や単車で通勤をする。そういう費用が安く済むというのも大きな住居選定のファクターになる。今まで40年間何もしてこなかった建設局のつけを、若い人たちに押し付けることに市長はどう思うか。より一層無料化を進めるべきと思うが、ご見解をお伺いしたい。

**A 久元市長**

大井議員のご指摘を踏まえ、まず実態をよく見させていただきたいという風に思う。財源を確保するというのではなく、名谷駅はかなりの人が利用する駅であるから、秩序ある形で、ルールが守られる形で駐輪をしていただくということが重要である。そういう観点から、若い世代の皆さんにこの名谷駅を自転車で便利に使っていただけるような方策というのがないのかということ、議員のご指摘を踏まえながら検討させていただきたい。

要望 大井としひろ議員

ぜひ名谷の駐輪場を見ていただきたいと思う。ついでに名谷のパーティオも見ておいてほしい。現在4,500台の駐輪場のうち、OM神戸名谷パーティオで無人駐輪場の利用が700台ある。そのほかに150台おけるURの無料の駐輪場、そして今回の無料駐輪場の600台をあわせると1,500台が無料で駐輪している。また600台が有料で駐輪されている。これらあわせて2,100台が駐輪場として利用されており、残りの2,400台ががらんとしたまま捨て置かれている。このスペースをどう活用するか、このこともぜひ考えていただきたい。